

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／中 恵美子

神奈川大学 学長 兼子良夫



横浜みなとみらいに 新キャンパスを開設。 横浜で学び世界へ、そしてふるさとへ

2028年の創立100周年に向
け、本学は大きく動き始めてい
ます。その一環として21年には、創立
の地に近い横浜・みなとみらい地区に、
都市型の高層キャンパスを開設。グロ
ーバル系の学部を集結させ、再始動す
る予定です。

同地区には最先端のグローバル企
業が集中しています。産官学連携や
地域連携の役割が期待され、キャンパ
スにオープンイノベーション機能をも
たせるなど、人が集い、知が交流する
拠点を目指します。また、周辺地域に
は優れた中小企業・ベンチャー企業も
数多くあります。起業家育成のため
のカリキュラムを充実させ、本学発の
ベンチャービジネスなどが育つ環境を

構築するつもりです。

新キャンパス開設の前年には、サブ
カルチャーを含む日本文化と歴史を
正しく理解、発信し、国際交流を担
えるグローバルな人材を養成するた
めの新学部の設置を構想しています。
本学は、創立当初から、英語の授業を
充実させるなど、国際人養成のため
の教育に力を入れてきました。グロ
ーバル教育はいわば本学のDNAです。
ただ、欧米中心の行き過ぎたグロ
ーバルスタンダードの陰で、世界中で矛盾
が生じているのも事実。その点、日本
の社会に内在する、他者を思いやる
「和」などの価値観が、今こそ注目さ
れるべきだと考えます。自治体の要
請に応え、観光人材を育成する構想

もありますが、それこそ日本文化に
対する理解が求められるでしょう。

本学では、東京・神奈川以外の地
方出身者が約4割を占めることもあ
り、「横浜で学び世界へ、そしてふるさ
とへ」の掛け声の下、地方創生に寄与
する人材の育成にも力を入れてきま
した。18の自治体と「U・イターン就職
支援協定」を結んでいるほか、全国に
100以上の支部があるOBORG組
織の力を借りながら地方への就職に
力を入れていきます。

こうした出口に加え、大切なのは入
り口です。高等学校の実情を知らず
に入試改革はできません。本学は、県
内を中心とした約80の高等学校およ
び諸機関からなる「神奈川大学高
大連携協議会」を通じて、密接な連携
を続けてきました。First Year
Seminarという初年次教育科目を設
けたのもその成果。伝統的な奨学金
制度である「給費生制度」を拡充し
たのも、経済的な実情を念頭に、優れ
た学生を全国から募るためです。

陸上競技部駅伝チームをはじめと
する課外活動団体の活躍もあり、在
校生や卒業生、その他大学関係者が
一丸となっている雰囲気を感じて
います。「オール神大」として力を結集
し、大きく変化していくつもりです。

【学長プロフィール】かねこ・よしお●1955年生まれ。同志社大学商学部卒業。大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得後退学。大阪大学で博士(経済学)の学位取得。熊本学園大学経済学部専任講師、大分大学経済学部助教授を経て、2003年神奈川大学経済学部助教授。07年同教授。経済学部長兼第二経済学部長などを経て、16年4月より現職。専門は財政学、地方財政。

【大学プロフィール】1928年横浜学院創設。1949年学制改革により神奈川大学設置。法学部、経済学部、外国語学部、人間科学部、工学部(以上、横浜キャンパス)、経営学部、理学部(以上、湘南ひらつかキャンパス)の7学部20学科2プログラム。